

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	機構学
科目基礎情報					
科目番号	0034		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	絵ときでわかる機構学				
担当教員	廣 和樹				
目的・到達目標					
1. 機素と対偶の理解, 機構の自由度の理解, 回転中心と瞬間中心の理解. 2. 4節回転リンク機構の理解. 3. カム機構, 摩擦車機構の理解. 4. 歯車機構, 巻き掛け伝動機構の理解.					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	機構と運動の基礎を理解でき、計算問題が解ける。		機構と運動を理解し、用語説明ができる。		機構と運動の基礎を理解できていない。
評価項目2	各種リンク機構を理解でき、計算問題が解ける。		各種リンク機構の種類や用途を理解している。		各種リンク機構を理解できていない。
評価項目3	各種歯車機構を理解でき、問題が解ける。		各種歯車機構を理解できる。		各種歯車機構を理解できていない。
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 (本科1～5年) 学習教育目標 (2)					
教育方法等					
概要	機構学に関する講義を行なう。機構学は、機械を構成している部品の相対運動を学習する。本講義では、一般的によく使用される機械の部品について、それがどのような役割をしてどのように動くのかイメージできることを目的とする。				
授業の進め方と授業内容・方法	イメージを掴むために、コンピュータを用いた動画により補足説明する。				
注意点	関連科目 数学 (三角関数, 微積分)、物理 (力学)、機械製図 学習指針 数学的な記述に慣れることと、物理的なイメージを掴めるようになることが重要である。 事前学習: 受講前に参考書の授業範囲を事前に読んでおくこと。 事後展開学習: 授業に関連する課題について、自分で解き、理解を深める。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	概要説明	機構学について概要説明する。	
		2週	機構と運動	機構について説明する。	
		3週	対偶と運動	対偶と運動、機構の自由度について説明する。	
		4週	リンク機構 1	リンク機構の種類と成立条件、連鎖の置き換えについて説明する。	
		5週	リンク機構 2	てこクランク機構について、種類、用途例を説明し、揺動角を計算する。	
		6週	演習	演習を行い、理解を深める。	
		7週	中間試験	授業内容を理解し、正しく解答できる。	
		8週	答案返却・解答	答案を見直し、理解が出来なかった点を確実にする。	
	2ndQ	9週	リンク機構 3	てこクランク機構について瞬間中心を求め、速度を計算する。	
		10週	スライダクランク機構 1	スライダクランク機構について、説明する。	
		11週	スライダクランク機構 2	揺動スライダクランク機構について揺動角などを計算する。	
		12週	カム機構	カム機構の種類、カム線図などを説明する。	
		13週	摩擦車と歯車装置 1	摩擦車について速度比などを説明し、歯車について、各部の名称や諸元を説明する。	
		14週	演習	演習を行い、理解を深める。	
		15週	期末試験	授業内容を理解し、正しく解答できる。	
		16週	学力確認	答案を見直し、理解が出来なかった点を確実にする。	
後期	3rdQ	1週	歯車装置 2	歯車について、モジュールを用いた計算、回転数比、多段歯車の回転数比などの計算をする。	
		2週	歯車装置 3	遊星歯車装置について説明し、作表法を理解し、回転数比の計算をする。	
		3週	歯車装置 4	遊星歯車装置について説明し、回転数比の計算をする。	
		4週	演習 1	演習問題を解き、理解を深める。	
		5週	演習 2	演習問題を解き、理解を深める。	
		6週	演習 3	演習問題を解き、理解を深める。	
		7週	中間試験	授業内容を理解し、正しく解答できる。	
		8週	答案返却・解答	答案を見直し、理解が出来なかった点を確実にする。	

4thQ	9週	巻き掛け伝動装置 1	巻き掛け伝動装置（種類、特徴、用途）について説明する。
	10週	巻き掛け伝動装置 2	引き続き、巻き掛け伝動装置（伝達力）について説明する。
	11週	巻き掛け伝動装置 3	引き続き、巻き掛け伝動装置（ベルと長さ）について説明する。
	12週	スライダクランク機構 1	スライダクランク機構について説明し、変位から速度、加速度の計算を行う。
	13週	スライダクランク機構 2	引き続き、スライダクランク機構について説明する。
	14週	演習	演習を行い理解を深める。
	15週	期末試験	授業内容を理解し、正しく解答できる。
	16週	演習	答案を見直し、理解が出来なかった点を確実にする。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0